

○ 第1回渋川市総合計画審議会結果概要

開催日時	平成28年7月29日(金) 10時から正午まで
開催場所 及び出席者	<p>本庁舎3階 大会議室</p> <p>○審議会委員（河藤委員、結城委員、福田委員、狩野委員、南雲委員、桑原委員、桑島委員、小澤委員、今井委員、水沢委員、入澤委員、眞下委員、大森委員、関口委員、反町委員、大澤委員、戸塚委員、野村委員、唐澤委員、荻野委員）</p> <p>○市長</p> <p>○策定委員会委員（副市長、教育長、総務部長、企画部長、保険年金課長（代理出席）、保健福祉部長、農政部長、商工観光部長、建設部長、水道部長、会計部長、生涯学習課長（代理出席）、農業委員会事務局長、議会事務局長）</p> <p>○事務局（企画課長、企画課統括主幹、企画課政策係員）</p>
配付資料	<p>資料No.1 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について</p> <p>資料No.2 第2次渋川市総合計画策定方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋川市総合計画</li> <li>・渋川市総合計画 後期基本計画</li> <li>・第2次渋川市総合計画の策定に向けた「渋川市市民アンケート調査」調査票</li> <li>・裾野の広いツーリズム産業（大森委員から）</li> </ul>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状交付</li> <li>3 あいさつ（市長）</li> <li>4 自己紹介</li> <li>5 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1） 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について</li> <li>（2） 第2次渋川市総合計画策定方針について</li> </ol> </li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>
審議結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>（1） 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について 会長に河藤佳彦委員、副会長に結城恵委員が選ばれた。</li> <li>（2） 第2次渋川市総合計画策定方針について 別紙のとおり</li> </ol>



○ 第1回渋川市総合計画審議会での意見等

No.	委員からの意見等	回答等
1	<p>現計画の総仕上げ年度が、今年度、来年度となるが、今年度、来年度は地域審議会が開催されないようである。現計画の集大成をどこで、どのように確認するのか。</p>	<p>【市】現計画は市長までヒアリングを行い、毎年見直しを行っている。また、第2次総合計画の策定にあたり、現計画の検証作業を始めているので、別の機会に結果を示したい。地域審議会は、合併して10年間設置という時限的な条例であったので、本年の3月末で廃止となった。地域審議会が担ってきた地域の声の市政への反映は、今後は自治会や各種団体を通じて、拾い上げていきたい。</p>
2	<p>渋川市は地域の力を借りることによって、まだまだ大きくなる可能性を十分に秘めている。吉岡町などと連携しながら、いかに渋川の魅力を発揮していくか、また、吉岡町が生活や文化の中で、渋川市と一緒にするような雰囲気づくりをこの計画の中に入れていくのも一案ではないか。</p>	<p>【市】現在、渋川市の南部地域振興として、JR八木原駅周辺の整備を進めており、昨年10月に渋川市と吉岡町で連携協定を締結した。また、吉岡町、榛東村と協力をし、駒寄インターから伊香保温泉までの観光ルートの開発などを進めている。広域連携を図りながら、人口減少を食い止め、地域の活性化を図っていきたい。</p>
3	<p>女性団体では、女性と男性が出会う機会を年間3～4回設け、縁結びに力を入れている。まず、子どもを育てやすい、出産しやすい環境をつくっていただきたい。</p>	<p>【市】市としても団体に対して助成を行うなど、少子化対策に繋がるように努力していきたい。</p>
4	<p>渋川市の現状を把握するため、過去10年間などの基礎データを配付いただきたい。</p>	<p>【市】基礎データなど提供できるものは提供したい。</p>

No.	委員からの意見等	回答等
5	アンケートやワークショップはすでに始まっているのか。	【市】アンケートは、6月の下旬に4,000人を抽出し、市内の方に郵送している。次回の会議で速報値を示したい。ワークショップは、青翠高校、渋高までは開催済みで、今後、渋女、渋工での開催を予定している。9月末から地区別と分野別の懇談会、市民向けワークショップの開催を予定している。
6	アンケートで「どちらとも言えない」という項目があるが、日本人はこの項目が大好きである。どちらとも言えないを外した方が良かったのではないか。集計にあたっては、項目ごとにどの年代の人がどの位など、細かい結果もあれば参考になるのではないか。	【市】回答者が問いに対して、「知らない」、「わからない」という場合でも選択できるようにしておかないと、回答率が悪くなる可能性があるため、「どちらとも言えない」という項目を設けた。年代等のクロス集計は時間がかかるため、数か月後にはなるが、結果を報告したい。
7	現行の総合計画の策定時のアンケート調査結果と対比ができればよい。県内や国内で行われている調査と比較可能なものがあれば、市の強みと弱みが見やすくなるのではないか。	
8	今まで無作為に送付し、実施した市民アンケートの回収率はどの位か。	【市】新市建設計画のアンケートは、8,000人を対象とし、回収率は約40%、現計画策定時のアンケートは、4,000人を対象とし、約40%であった。現在は、35%程度に落ちてきているが、標本数と回答数は、基準を越えているので、誤差は問題がない。

No.	委員からの意見等	回答等
9	<p>市民アンケート調査の結果は、広報に載るのか。子育て世代や高校生など若い世代が市政に対して興味をもつ第一歩が広報ではないか。若い人にも広報を読んでもらえるような工夫等はあるか。</p>	<p>【市】広報だと紙面も限られてしまうため、ホームページを中心に掲載を考えている。また、広報にも紙面を工夫し結果を掲載したい。若い人に広報を見てもらうため、i 広報がある。無料のアプリケーションをスマートフォンにダウンロードすると、広報のPDF版をカラーで見ることができる。また、ツイッター、フェイスブックなどで市政情報を発信している。</p>
10	<p>合併して10年経つが、赤城インターチェンジ周辺などは、企業誘致が進んでいない。大きな会社を誘致できれば、人口も増えるのではないか。</p>	<p>【市】赤城インター周辺は、優良な農地があり、企業の進出が確実にないと農業振興地域の除外ができない。除外されている地域は企業誘致の候補地として県に報告している。面積、場所等に関わらず、地域から相談のあった候補地は、その都度、県企業局に報告し、企業誘致に向けた取組を行っている。また、市内企業、県内企業等の情報をできる限り収集し、東京等の企業に本市の強みである自然災害に強い場所、交通の利便性の高い場所等を宣伝し、誘致に取り組んでいる。</p>
11	<p>現在市内にある大企業に居続けてもらうため、企業の困りごとを解決することもある程度必要ではないか。産業経済省のシステム「リーサス」では、ほかの地域、ほかの企業とどのように繋がっているかがわかる。企業のために活用できるのではないか。県としては、渋川地域だけではなく、広域的に考え、北毛の拠点ということで、沼田あるいは吾妻全域を含めて考えていただければありがたい。</p>	<p>【会長】渋川の特性をどういかにして、どのような企業を誘致するかが大事である。来てもすぐにどこかに行ってしまうのでは困るので、新たな誘致と同時に、今いる企業を大事にすることも大事である。リーサスは、公開されている部分と自治体しか見えない部分がある。企業情報があるため、産業分野は限定されている部分が多いが、地域においてどのような産業が向いているか把握することができるので、活用することが大事ではないか。</p>

No.	委員からの意見等	回答等
1 2	<p>観光というと一つの産業に捉えられてしまうが、ツーリズム産業と見ると、すべての業種に関わってくる。委員の所属団体等を縦糸と考えたとき、観光は横糸で紡ぐ役割だと考えている。そういったことをもう少し次期総合計画に盛り込み、市民に理解を得ることが重要ではないか。最終的には交流人口を増やすことが、定住人口を増やすことに繋がるのではないか。</p>	<p>【会長】観光産業は複合産業だと言える。渋川市は伊香保温泉を始めとして非常にたくさんの観光資源がある。それを横断的に活用、連携させることが、これから総合計画を検討する上で重要な要素になるのではないか。</p>
1 3	<p>総合計画後期基本計画を見ても心が躍らない。あまり非現実的なことを書くこともできないが、国の方針などをうまく掴み、渋川市が将来に向かってより発展できるようにしていただきたい。後を追いかけるのではなく、行政は、ある意味ではすべてにおいて先達でなければならぬのではないか。地域産業を支援する方策を立て、方向性を発信する必要がある。10年間の計画を立てるのであれば、ある程度、浪漫や夢みたいなものを中に織り込むことも必要ではないか。</p>	<p>【会長】アンケート調査やワークショップなどでの市民の意見を踏まえ、第2次総合計画には先導的な、リーディングポリシーを入れていくべきではないか。できれば、アクションプログラムのものを意識し、すぐに活用できる形になるとよいのではないか。</p>